



6 淀川ワンド群 (城北・庭窪・楠葉など)

淀川ワンド群(城北・庭窪・楠葉など)

ホットスポットAランク 全体地図 ⑱

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地

周辺の施設など
大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センターでは、イタセンパラをはじめ淀川流域の淡水魚を展示
各種保全活動や観察会を実施
☎ 072-833-2770
URL:
<http://www.kannou-suiken-osaka.or.jp/biodiv/>

淀川資料館では、淀川の歴史や環境に関する展示や企画展を随時開催
☎ 072-846-7131
URL:
<http://www.yodo-museum.go.jp/>

淀川の本流に沿って並ぶ池のような水域はワンドと呼ばれ、重要な水生生物の生息地となっている。ワンドは河岸から川の中心部に向けて石を積んだ工作物(ケレップ水制)によって形成された水域で、舟運を主目的として明治から昭和にかけて行われた河川改修がその由来となる。本流とのつながり方によって、さまざまな環境が生じるとともに、河川の増水時には、強い攪乱作用を受ける。複数が連続するワンド群は、特に生物多様性が高い。かつては淀川全域に500を超えるワンドが存在したが、1970年代の河川改修により、そのほとんどが消失した。現在、いくつかのワンド群が残存する。また、近年、新規造成の取り組みも進められている。



城北ワンド群

城北ワンド群(大阪市旭区)

淀川最大規模のワンド群で、大阪市内の都市部に位置し、約1.2kmにわたり20を超えるワンドが連続している。自然保護活動により消失を逃れた。特に、国の天然記念物で種の保存法に選定されている淡水魚イタセンパラ(府・I類)の生息地として知られている。

外来の水生植物や魚類の大量繁殖等の要因で、2005年にイタセンパラの生息確認が途絶えたが、現在は野生復帰の取り組みが精力的に進められている(コラム参照)。他にシロヒレタビラ(府・I類)、カワヒガイ(府・I類)、ヨドゼゼラ(府・II類)など多くの種類の淡水魚が生息する。オグラヌマガイ(府・I類)、トンガリササノハガイ(府・II類)、カラスガイ(府・準)など二枚貝類の生息種数も多い。

淀川河川公園 庭窪レストセンターは、庭窪ワンド群に隣接し、休憩等に便利
☎ 06-6993-0765
URL:
http://www2.kasen.or.jp/map/s_niwa.html



シロヒレタビラ



カワヒガイ



ヨドゼゼラ



城北ワンド群

アクセス:城北ワンドへは大阪市営バス「城北公園前」など。車は阪神高速12号守口線城北出口など。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成



庭窪ワンド群

庭窪ワンド群(守口市)他

約500mにわたり5程度のワンドが連続して残存する。平成初期頃までイタセンパラが生息していたものの、現在確認が途絶えている。城北ワンド群とはほぼ同様の水生生物種が確認されており、多様性が高い。一部のワンドでは、イタセンパラの野生復帰を目指した保全の取り組みが進められている。



楠葉ワンド

他に、近年新造された8のワンドが連続する楠葉ワンド(枚方市)、同じく芥川河口域に新設された唐崎ワンド群(高槻市)などが存在する。

(上原 一彦)



唐崎ワンド



オグラヌマガイ(幼貝)



カラスガイ(幼貝)



楠葉ワンド(枚方市)



庭窪・八雲・鳥飼ワンド群

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成



7 淀川汽水域

ホットスポットAランク 全体地図 19

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地

淀川大堰から河口までの約10kmの範囲は淡水と海水が混じりあう汽水域で、両岸には干潟やヨシ原があちこちに見られ、大都市に残された貴重な自然のホットスポットを形成している。上流側からみていくと、まず長柄橋右岸の少し下流に、国土交通省により2004年に造成された柴島の再生干潟が入り江状の湿地となって広がっている。下ると新淀川大橋の下流側から十三大橋手前の木川付近までの間に、淀川では最大規模の砂泥質干潟を伴うヨシ原が見られる。対岸の中津地区にもヨシ原が連なり、十三大橋周辺では泥質干潟が付随する。さらに新十三大橋左岸から下流側の大淀地区には再生事業による新たな人工干潟が造成されている。右岸の東海道本線鉄橋の周辺にも干潟ができ、また淀川大橋の両岸にも転石まじりの干潟が見られる。左岸を下ると海老江地区にも再生事業による砂洲状の人工干潟が2004年に造成されている。



十三干潟



柴島再生干潟



中津ヨシ原



大淀再生干潟



淀川大橋左岸



クロベンケイガニ



アシハラガニ



ヤマトオサガニ

この一帯のヨシ原と干潟にはクロベンケイガニやアシハラガニ、ハマガニなどが巣穴を掘り巡らし、他のベンケイガニ類も含めて陸生のカニ類が多産する。また潮上帯・高潮帯にはヒメハマトビムシ、マルウズラタマキビガイ、オイワケゴカイなどが生息する。砂質の干潟にはハクセンシオマネキが各所に見られ、泥質の干潟にはヤマトオサガニも生息する。ヨシ原や水際の湿地にはカワザンショウガイ(府・準)の密集する所がある。護岸にはアオノリ類、紅藻のホソアヤギヌ(府・準)、汽水性のフジツボ類、コウロエンカワヒバリガイ、マガキなどの固着性生物が優占する。また転石上にはこれらに加えてイシマキガイ、ウネナシトマヤガイ、カニヤドリカンザシゴカイ、イソコツブムシ類などが付着し、転石下にはヒゲツノメリタヨコエビをはじめとするヨコエビ類やユビナガホンヤドリ、ケフサイソガニ類、モクスガニの稚ガニなどが隠れ棲む。干潟の砂泥中にはアシナガゴカイ、カワゴカイ類、ヤマトシジミ(府・準)などが高密度で生息する。



ホソアヤギヌ



カワザンショウガイ



アクセス：大阪市営地下鉄、JR東西線、阪神なんば線などで周辺へ。車は阪神高速湾岸線、神戸線、国道43号など。
地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成

淀川汽水域では、他に次のような大阪府のレッドリスト種が記録されている。

塩生植物：ヨシ原にシオクグとウラギク(ともに府・準)がヨシに随伴して生育する。

海藻：転石上に緑藻のマキヒトエグサ(府・準)が点在する。
軟体動物：浅い水たまりにミズゴマツボ(府・II類)、エドガワミズゴマツボ、カワグチツボ(ともに府・準)が生息する。

甲殻類：小形甲殻類では転石下や砂泥中に生息するオオサカドロソコエビ(府・I類)、ヒガタスナホルムシ、ヒメコツブムシ(ともに府、II)、ニホンドロクダムシ(府・準)、および木製の杭などに穴をあけるヨツバコツブムシ(府・準)が記録されている。またカニ類ではチゴガニ(府・II類)、スナガニ、コメツキガニ、オサガニ、ユビアカベンケイガニ、ヒメアシハラガニ、オオヒライソガニ(いずれも府・準)が干潟から記録されている。

昆虫：塩生湿地を生育地とするヒヌマイトトンボ(府・I類)が近年再発見されている。

魚類：ニホンウナギ(府・II類)が遡上し漁獲の対象とされている。

(山西 良平)



オオサカドロソコエビ



カワグチツボ標本



ウラギク



カワグチツボ



ヨツバコツブムシ

コラム イタセンパラ column

イタセンパラは、国の天然記念物(文化財保護法)で、且つ国内希少野生動植物種(絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律)に選定されている絶滅危惧種で、淀川のシンボルフィッシュと呼ばれている。日本固有種で淀川水系の他に、濃尾平野、富山平野に分布しているが、いずれの地域でも絶滅が懸念されている。秋の産卵期には、雄が赤紫色の婚姻色(写真)を現し、雌は生きたイシガイ科二枚貝の体の中に産卵する。貝の体内で卵がふ化し、4月末から5月にかけて仔魚が貝から泳ぎ出るというユニークな生態を持つ。

淀川のイタセンパラは、ワンドと呼ばれる河岸に並んで位置する池のような水域に生息する(淀川ワンド群参照)。しかし、2000年代以降、外来の水生植物が大量に繁茂(写真)して生息環境を悪化させたことや、外来魚のブラックバスやブルーギル等(写真)の食害により、2005年を最後にイタセンパラの確認が途絶えた。生息する魚の8~9割(尾数割合)が外来種という状況となり、イタセンパラ以外の在来魚の多くもほとんど確認できない状態となった。なお、淀川のイタセンパラは、大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センター等で飼育繁殖(生息域外保存)されていたことから、絶滅は回避された。

外来種の大量繁殖から淀川の生物多様性を保全再生するため、水生生物センターや国土交通省淀川河川事務所が中心となり、淀川最大のイタセンパラの生息地である城北ワンド群の一部において、外来魚の大規模な駆除が実施された。その結果、外来魚の割合を30%程度にまで低下させることに成功した。



イタセンパラ
赤紫色に色付く雄(右)と産卵の
ために二枚貝(左下)を覗く雌(左)



保全活動(イタセンネット)



イタセンパラ放流式典

イタセンパラ復活に向けた機運の高まりから、2011年には、イタセンパラをシンボルとして淀川の生物多様性の保全再生に取り組むことを目標に掲げた「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(略称:イタセンネット)」が設立された。「イタセンパラを再び淀川に泳がせよう!」との合言葉のもと、市民団体、大学や企業、行政などの多様な主体が参画した保全活動がスタートした。

引き続き、城北ワンド群ではイタセンネットをはじめ官民を挙げて、外来魚の駆除が続けられたが、イタセンパラ未確認の状態が続いた。その一方、外来種の減少に伴い、これまでほとんど確認できなくなっていた在来魚が増え始めた。そこで、イタセンパラの野生復帰を進めている水生生物センターと淀川河川事務所は、2013年10月、保全活動が継続しているワンドに500尾のイタセンパラ親魚を公開放流した。放流式典では、地元の小中学校の児童生徒などが赤紫色に色付いたイタセンパラを淀川に放した。

現在、イタセンネットが中心となり、イタセンパラの命を二度と絶やさないように継続的に外来魚の駆除を兼ねた魚類調査や外来植物の摘み取り、河川清掃等が行われている。ワンドではイタセンパラが自然繁殖し、2015年の春、放流した魚の孫にあたる稚魚が誕生した。保全活動が継続しているワンドでは、イタセンパラをはじめ約20種類の在来魚が確認できるようになり、生物多様性が回復している。

関係施設など

・大阪府立環境農林水産総合研究所 水生生物センター
イタセンパラをはじめ淀川流域の淡水魚を展示。各種保全活動や観察会を実施
☎ 072-833-2770、URL: <http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/biodiv/>

・淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(イタセンネット)
現在39の団体がイタセンパラ保全に向けた取り組みを実施

☎ 072-833-2770(事務局:水生生物センター内)

URL: <http://www.itasenpara.net/index.html>

(上原 一彦)



ワンドに大量繁茂した外来水生植物



ブラックバスとブルーギル



8 南港野鳥園・夢洲

ホットスポットAランク 全体地図 ②0

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地

周辺の施設など
・野鳥園臨港緑地
(もと大阪南港野鳥園)

隣接する駐車場とともに、利用時間は午前9時から午後5時まで
毎週水曜日(祝日は利用可能)と年末年始(12月28日から1月4日)は閉館
以前は、レンジャーが常駐して野鳥のガイドをしていたが、2014年4月以降、職員は常駐していない代わりに2015年6月からは、日曜日を中心に市民ボランティアが来場者に野鳥のガイドを行っている
☎ 06-6615-7754 (大阪市港湾局)
URL:
<http://www.osaka-nankou-bird-sanctuary.com>

古くから大阪市の湾岸部は埋め立てが進められてきたが、1970年代に急速に埋め立てが進んだ中、大阪市住之江区の南港埋立地に広大な干潟状の水たまりが広がり、多数のシギ・チドリ類が見られるようになって、バードウォッチャーでにぎわうようになった。しかし、埋立地はやがて整備が進み、シギ・チドリ類の渡来地は失われる。そこで、野鳥の渡来地を残す市民運動が起こり、その結果、1983年に残された埋立地に大阪南港野鳥園が開園した。開園当初は、干潟と裸地が広がっていたが、その後、ヨシ原が広がって現在に至っている。



野鳥園臨港緑地(もと大阪南港野鳥園)



コアジサシ(植山雅仁 撮影)

大阪市此花区の夢洲は、舞洲の南西、大阪北港の一画を占める。その東側はコンテナ埠頭として整備が終わっているが、西側には広大な裸地や草地、水たまりが広がっている。裸地はコアジサシ(府・I類)などのアジサシ類や、シロチドリ(府・II類)の繁殖地となっており、水たまりはカモ類など水鳥が多数集まり、周囲にはシギ・チドリ類も見られる。

野鳥園臨港緑地(もと大阪南港野鳥園)は、現在、大阪府内で随一のシギ・チドリ類の渡来地となっている。定期的な渡来種数、及びシロチドリ(府・II類)やハマシギの個体数の多さから、「シギ・チドリネットワーク」の登録湿地、並びに「日本の重要湿地500」に選ばれている。アカアシシギ(府・準)やエリマキシギ(府・準)など、大阪府では大阪南港野鳥園だけで定期的に記録されるシギ・チドリ類も少なくない。アオアシシギ(府・II類)やトウネン(府・準)、チュウシャクシギ(府・準)なども多く観察される。



アカアシシギ(植山雅仁 撮影)



トウネン(植山雅仁 撮影)



アオアシシギ(植山雅仁 撮影)



アクセス:野鳥園臨港緑地(もと大阪南港野鳥園)へはニュートラム南港ポートタウン線「トレードセンター前駅」から徒歩。車は阪神高速湾岸線や咲洲トンネルを利用。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成



ハイイロチュウヒ
(植山雅仁 撮影)

鳥類だけでなく、底生生物相の調査も行われており、多くの府レッドリスト種が記録されている。例えばナギサノシタタリ(府・II類)は大阪府では唯一の記録である。また、大阪府では稀なウスコミガイ(府・II類)、ウチワゴカイ(府・II類)、フジテガニ(府・準)なども見つかっている。泉南の河口干潟には生息するが、湾奥では見られなくなるフトヘナタリ(府・準)、クリイロカワザンショウ(府・準)、ソトオリガイ(府・準)などの記録があることは、大阪南港野鳥園が干潟棲生物にとって貴重な生息場所になっていることを示している。



ベニアジサシ
(植山雅仁 撮影)



シロチドリ
(植山雅仁 撮影)

夢洲は、野鳥園臨港緑地(もと大阪南港野鳥園)のすぐ北西側にあり、チュウヒ(府・I類)やハイイロチュウヒ(府・準)のように両者を行き来している鳥も多い。夢洲は、一時期は大阪湾随一のコアジサシ(府・I類)の繁殖地で、ベニアジサシ(府・準)の繁殖例もあるが、整備が進む中、コアジサシやシロチドリ(府・II類)の繁殖数は減少している。

(和田 岳)



夢洲



9 金剛山

ホットスポットAランク 全体地図 30

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地

千早赤阪村、奈良県境に位置する金剛山地域は、1000mを超える標高を誇り、ブナをはじめとする冷温帯性植物の豊富さが特徴で、ソハヤキ要素の北限域でもある。ノカラムツ(府・I類)やコゴメグサ属の1種が記録され、ミツバコンロンソウ(府・I類)のような分布の限られた植物が生育するほか、地域固有種カツラギグミ(府・II類)が知られているなど、ことのほか植物相が豊かで、ユキグニミツバツツジの隔離分布など植物地理学的にも特筆すべき地域となっている。

この地域の名を付された植物には、カツラギグミ以外にもカワチトリカブト、カワチハギ、コンゴウバッコヤナギ、コンゴウダケ、カツラギザサ、カツラギイヌスズ(コンゴウイヌスズ)などがあり、地元でもこの素晴らしい植物をはじめとする自然に親しむ機会が多くつくられている地域でもある。

近年、府下北部地域ではシカの生息によって植生の大きな変化がみられるが、生息域から外れている当地は多様な植物相が残り、



ブナ(左木山祝一 撮影)

様々な生きものを育むことにつながっている。四季折々の自然の移り変わりは、私たちにいのちの躍動を感じさせてくれる、大阪では稀有な地域となっている。

周辺の施設など
ちはや星と自然のミュージアム
府民の森ちはや園地の中心に位置した、金剛山の自然やそこから見える星空の情報拠点となる施設。自然について知ってもらうための展示スペース、学習スペース、そして観察などをおこなう活動スペースがあり、散策の際に利用すると便利である。

<http://1000m.chihayaakasaka.osaka.jp/>
☎ 0721-74-0056



金剛山

・千早赤阪村営宿泊施設 香楠荘
〒585-0051 大阪府南河内郡千早赤阪村大字千早1313-2
・会議室は会議、研修、各種勉強会などに利用できる。
<http://www.konans.com/>

☎ 0721-74-0321
Fax 0721-74-0319

・ちはや園地・金剛山キャンプ場
大阪で最も標高の高いキャンプ場。パーベキューやピザ窯を使った野外料理、1年を通じて持ち込みテントによる宿泊ができ、夏の期間には常設テントを利用して初心者でも気軽にキャンプが体験できる。宿泊にはバンガロータイプも用意がある。

☎ 0721-74-0056

・金剛山ロープウェイ
日本でも数少ない村営のロープウェイ
http://seesaawiki.jp/w/kongosan_ropeway/#pagetop

山地性のシダやコケ

ブナが生育する1000m前後の標高のところには、冷涼な気候を反映したマンネンスギ、コケシノブ、ホンバイヌワラビ、カラクサシダ(府・I類)、ミヤマクマワラビ、オシダ、ミヤマノキシノブ、オシャグジデンド、などのシダ植物がみられる。また、コケ植物で蘚類では、ヨツバゴケ、コカモジゴケ(府・II類)、ミヤマシッポゴケ、ナガミノゴケ(府・準)、モミゴケ(府・I類)、リスゴケ(府・II類)、イボヤマトイタチゴケ(府・II類)、フトスズゴケ(府・準)、ツルゴケ、トラノオゴケ、タカネメンスリゴケ、チャボスズゴケ、フジハイゴケ(府・I類)などが、苔類では、ホラゴケモドキ、ツツソロイゴケ、オヤコゴケ、ソコマメゴケ、ウサミヤステゴケ、ケシゲリゴケ、シャクシゴケ(府・準)などが、土の上や岩上、樹幹などにみられる。このような小さな小さな植物たちの生育環境をも作り出しているブナ林を主にした山頂周辺の林は、大阪に残された貴重な自然である。



ウサミヤステゴケ



ケシゲリゴケ



冬の金剛山

セミの種類で垂直分布を

夏、都市部でクマゼミやニイニゼミの鳴くのを聞いて、金剛山山麓部500m前後に来るとミンミンゼミやヒグラシに、700-900m前後になるとエゾゼミが、1000m前後になるとアカエゾゼミを聞くことができる。山麓部では照葉樹林、スギ、ヒノキの植林が多いが、落葉広葉樹林、アカマツ林など多様な植生が中腹にあり、1000m前後にはブナの林になっている様子でセミの種類が分かっていることは、気温、降水量、土地の性質、人のかかりなど様々な要素が複雑に絡んで影響していると考えられる。これからの地域環境を知る手がかりとしても重要な地域といえる。



冬のブナ林

(道盛 正樹)



アクセス: 南海河内長野駅から南海バスで「金剛山」下車。金剛山ロープウェイに乗り換え。車は国道310号線から府道705号線へ。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成

・府民の森の園地情報は、一般財団法人大阪府みどり公社
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8
<http://osaka-midori.jp/mori/chihaya/index.html>
☎ 06-6266-1038
Fax 06-6266-8665
eMail: ryokka@osaka-midori.jp



10 天見・岩湧山・ 滝畑・槇尾山

ホットスポットAランク 全体地図 ③1

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地

周辺の施設など
・岩湧の森「四季彩館」では、自然観察指導を受けられるほか、休憩所としても利用できる。
☎ 0721-63-5986
URL:
<http://www.city.kawachinagano.lg.jp/shikisaikan/route/shikisaikan.html>

・「滝畑ふるさと文化財の森センター」は民俗資料館と宿泊施設があり、滝畑や岩湧山散策の際に利用すると便利である。
☎ 0721-63-0201
URL:
http://www.city.kawachinagano.lg.jp/manabiyam/facility/mori_center.html

河内長野市から和泉市にかけての山間部に広がるこれらの地域は、和泉山脈の東端にあたり、山脈の南側は和歌山県橋本市となっている。府県境の南葛城山(922m)は、和泉山脈で最も標高が高い。周辺はスギ、ヒノキの植林が多いが、落葉広葉樹林、アカマツ林、照葉樹林など多様な植生が見られる。



天見 八幡神社の社寺林 (左木山祝一 撮影)

岩湧山(標高897.7m)の山頂付近は、萱場(かやば)として管理され、一面にススキの草原が広がっている。長年、草原として維持されてきたため、キキョウ(府・II類)、オミナエシ(府・準)など多数の草原性の植物種が見られる。哺乳類では、カヤネズミ(府・準)の球状巣が観察できる。岩湧寺付近には、ムササビ(府・準)も生息する。滝畑からの登山道沿いには、スギやヒノキの植林とコナラ、クヌギなどの雑木林が見られ、ミヤマセセリ、ハルゼミ(ともに府・準)などの里山性の昆虫も見られる。

天見は、和泉山脈と金剛山地を東西に隔てる紀見峠の北側に位置し、石川の支流である天見川の上流部にあたる。エノキの高木が多く、オオムラサキ(府・準)が観察できる。流谷などの支流には水生昆虫が豊富で、府内で生息地の少ないナベバタムシ(府・準)の記録もある。

滝畑は、大和川に合流する石川の上流部にあたり、滝畑ダムから上流が溪流となっており、支流も多い。府内では生息地の少ないアカザ(府・II類)が見られるほか、支流上部ではコガタブチサンショウウオ(府・II類)も生息する。



槇尾山(左木山祝一 撮影)

・和泉市立青少年の家「槇尾山グリーンランド」には宿泊施設、キャンプ場などがあり、自然観察指導も受けられる。
☎ 0725-92-0422
URL:
<http://makiosan.com/facility.html>

槇尾山(標高600m)は、植林と照葉樹が多く、落葉広葉樹とアカマツも見られる。地層や岩石が多様で和泉層群、泉南層群、花崗斑岩類などが見られる。山腹に施福寺があり、アクセスは良い。

その他 キジョランが局地的に自生し、10月中旬にはアサギマダラの個体数が多い。サツマヒメカマキリなどの南方系昆虫の記録もある。
(平井規央)



オミナエシ



ムササビ(林 育造 撮影)



ナベバタムシ



アクセス 天見:南海高野線「天見」下車。滝畑:南海高野線「河内長野」から南海バス。岩湧山:南海高野線「紀見峠」または滝畑方面から。槇尾山:泉北高速鉄道「和泉中央」から南海バス。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成



11 鉢ヶ峯寺・豊田 別所・金剛寺

ホットスポットAランク 全体地図 **33**

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産 無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地

周辺の施設など「堺自然ふれあいの森」は、森の学校をテーマに里山の保全を目標にした里山公園で、園内散策や自然観察、体験学習の他、団体を対象にした自然体験型のプログラムを提供している。
☎ 072-290-0800
URL:
<http://www.sakai-fureainomori.jp/>

※コラム3 「ふれあいの森」参照

堺市南部から河内長野市北西部にかけての丘陵部にあるこれらの地域は、まとまった樹林地に、河川、溜池、棚田等の水域の要素が入り込み、農業をはじめとする人との関わりを通して育まれてきた里地里山が存在している。この地域では、人が手入れすることによって多様な景観が生まれ、多種多様な野生動植物が生息・生育している。



堺市南部の雑木林



南部の丘陵地

鉢ヶ峯寺・豊田・別所(堺市南区)は、堺市内を南北に貫き、大阪湾に注ぐ石津川の上流・源流部にあたり、市南部に位置する丘陵地(堺・南部丘陵)が広がっている。また、都市部の近くにありながら、自然の豊かさを身近に感じることができる地域である。シリブカガン群落等の原生的な植生を擁する二次林を中心に、人々の生業によって維持されてきた溜池、棚田、河川等が維持され



石津川水系上流部

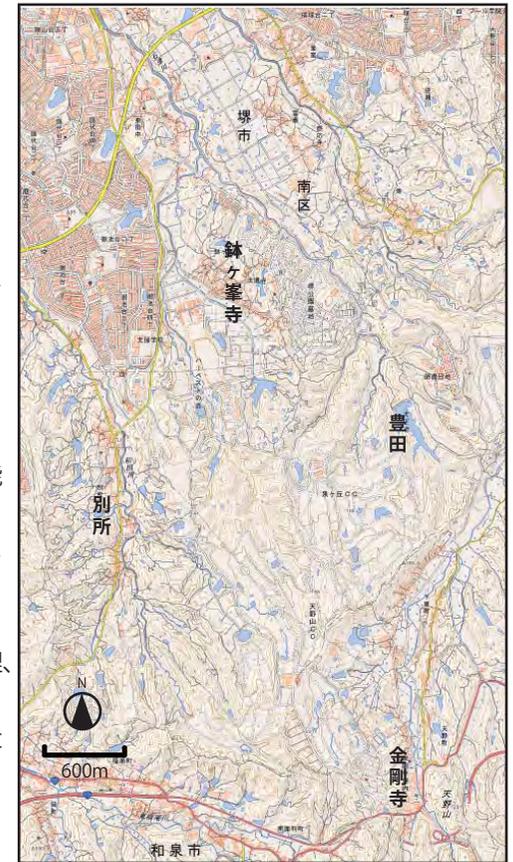


内河池

「ハーベストの丘」は、甲子園球場8個分の広さがある花と緑が豊かな農業公園で、動物とのふれあい体験等ができる。
☎ 072-296-9911
URL:
<http://farm.or.jp/>

ており、樹林地ではオオタカ、フクロウ(ともに府・準)、農地や水域ではカスミサラン、シショウワオ、カワバタモロコ(ともに府・準)、シレーゲルアオガエル、ヘイケボタル、ムカシヤンマ(ともに府・準)等、里地里山の特徴的な生き物が生息している。希少な野生動植物が生息・生育し、種の多様性が高い「生物多様性ホットスポット」して

の役割のほか、森・里・川・海をつなぐ水と緑の生態系ネットワークの形成を進めていく上で、都市部に対する種・生態系の供給源として重要な位置付けにある地域でもある。一方、同地域の約600haの樹林地は、低炭素社会に貢献する「クールダム」としての機能も有している。また、同地域では持続可能な里地里山環境をつくるため、地元小学校主体によるカワバタモロコの保護活動や、堺自然ふれあいの森での市民ボランティアによる樹林管理、環境学習等の各種取組が行われている。大阪や堺の都市部からも非常に近い立地であることから、今後の里地里山の保全・活用策について、府民や企業の参画等が期待される地域である。



アクセス: 泉北高速鉄道「泉ヶ丘」から南海バス畑・鉢ヶ峯線を利用。金剛寺へは南海「河内長野」から南海バスで天野山下車。車は近畿自動車道堺インターチェンジや国道170号線から近い。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成



オオタカ

平成27年12月には、「堺・南部丘陵」が「環境省：生物多様性保全上重要な里地里山」の一つとして選定されている。

天野山金剛寺(河内長野市)は、奈良時代に行基が開創し、弘法大師が密教の修行をしたと伝えられている寺院で、楼門や金堂など多くの国宝・重要文化財がある。境内やその周辺は豊かな自然にあふれており、境内には樹齢500年以上といわれる大阪府指定文化財「金剛寺のすぎ」があり、春の桜(シダレザクラ、ソメイヨシノ、ギョイコウ等)、秋の紅葉と四季を通じて美しく、「大阪府みどりの百選」にも選ばれている。

(辻尾 匡彦)



シリブカガシ(ドングリ)



キンラン



シュレーゲルアオガエル



カスミサンショウウオ(幼生)



12 和泉葛城山

(牛滝・塔原・蕎原・梶谷・馬場・犬鳴)

ホットスポットAランク 全体地図 ④〇

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地



和泉葛城山ブナ林

岸和田市から貝塚市を経て泉佐野市に至る山間部に広がるこれらの地域は、和泉山脈の中心をなす位置にあり、和歌山県側へ抜ける道路がいくつか貫いている。

和泉葛城山(858m)は、和歌山県との府県境にあり、大阪側の山頂周辺に国指定天然記念物のブナ林が広がることで知られている。湿った林床環境にすむ陸産貝のオオギセル(府・I類)、両生類のニホンヒキガエル(府・II類)、昆虫類のカヤ

周辺の施設など・きしわだ自然資料館は岸和田市をはじめとした大阪南部の身近な自然を紹介している博物館相当施設自然観察会や室内プログラムなどを数多く開催している
☎ 072-423-8100
URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>



セダココブヤハズカミキリ



オオギセル



牛滝

・貝塚市立自然遊学館は貝塚市の自然を中心に紹介している施設
自然観察会や企画展などを多数実施している
☎ 072-431-8457
URL:
<http://www.city.kai-zuka.lg.jp/shizen/>

コオロギ(府・Ⅰ類)やエゾゼミ、セダカコブヤハズカミキリ(ともに府・準)などの希少種が確認されている。

牛滝は、和泉葛城山の北東側にある谷で、和泉葛城山中に源を発する牛滝川の上流部に位置している。何段にもなった滝や秋に美しい紅葉を見せる大威徳寺境内のイロハモミジ林、西側斜面に広がるシラカシ林などによりすぐれた景観を有することから、大阪府により名勝に指定されている。和泉葛城山頂へ登る山中では、ムカシトンボ(府・準)やコガタブチサンショウウオ(府・Ⅱ類)など、山地性の希少種が見られる。

塔原は、牛滝より西側の津田川上流部に位置する地域で、牛滝よりもスギ、ヒノキの植林の割合が高くなるが、集落周辺にはシイ林が残る場所もある。少ないながらも見られるクヌギの樹液では、



塔原



ベニイトトンボ



アクセス: 南海「岸和田」から南海バスで「牛滝山」「塔原」へ。蕎原、秬谷、馬場へは、貝塚駅から水間鉄道で「水間観音」へ。犬鳴へはJR「日根野」から南海バスで「犬鳴山」へ。車は近畿自動車道「岸和田和泉」、「貝塚」、「上之郷」インターチェンジから南へ。

オオムラサキ(府・準)やスミナガン(府・準)などのチョウ類が、また集落からすこし山中へ入ったところにあるため池では、ベニイトトンボやキイトトンボ(ともに府・準)などのトンボ類が、それぞれ確認されている。



ニホンヒキガエル



ムカシトンボ

蕎原と秬谷は、近木川の上流域にあたり、スギ、ヒノキの植林がやや多くなっているが、集落周辺にはクヌギやアベマキ中心の雑木林やシイ林が広がっている。動植物は豊富で、ニホンヒキガエルやコガタブチサンショウウオ(ともに府・Ⅱ類)といった両生類、ムカシトンボ、ハンミョウ(ともに府・準)などの昆虫類のほか、スズサイコ(府・Ⅱ類)やユキワリイチゲ(府・準)などの植物も記録されている。

犬鳴は、樫井川の上流部に位置する地域で、ウバメガシなどの照葉樹やコナラ、クヌギなどの落葉広葉樹に、スギ、ヒノキが入り混じる森林構成となっている。昆虫類では、ヒメハルゼミ(府・Ⅱ類)が確認されているほか、和泉葛城山頂へ続く林道付近にある池では、キンイロネクイハムシ(府・Ⅱ類)やオオルリボシヤンマ(府・準)などが見つかったりしている。

その他 塔原をすこし海側へ下ったところにある相川は、ゲンジボタルを観賞するイベントが毎年実施されていることで知られるが、秋にはミヤマアカネ(府・Ⅱ類)が確認されている。

(平田 慎一郎)



相川

・大阪府立少年自然の家は蕎原の森林内にあり自然に親しむためのさまざまな体験活動をおこなっているほか、宿泊をともなう研修などにも利用されている
☎ 072-478-8331
URL:
<http://shizen.osaka-yha.or.jp>



蕎原



ミヤマアカネ

コラム 堺自然ふれあいの森の column 生物多様性に関する取り組み

堺自然ふれあいの森は、平成25年に策定された「堺市緑の基本計画」の緑のシンボルエリアの1つである「南部丘陵」に位置します。また、大阪府レッドリスト2014／生物多様性ホットスポット「鉢ヶ峯寺、豊田、別所、金剛寺」の一部地域にも該当します。

ふれあいの森は、市民協働により豊かな自然環境や多様な生きものの生息空間を保全し、「森の学校」として自然との

ふれあいや里山文化を伝承する場として、平成18年4月に開園しました。敷地面積は17.2ha。約70%は傾斜地で、コナラやリョウブなどの落葉広葉樹とシリブカガシやアラカシ等の常緑広葉樹の混交林となっており、残りの約30%は復元した農地やため池です。また、園内には石津川水系の水源の1つがあり、大阪湾の豊かな生態系を支える一端を担っています。

かつて南部丘陵一帯は、薪や落ち葉を得るために人が入り維持管理されてきましたが、石油や石炭などの化石燃料が普及すると薪や炭の需要が減ったため、森は長年放棄され、常緑樹を中心とした森へと推移しました。当施設ではかつてこの地に広がっていた里山の風景を復元し維持するため、毎年秋に「森の整備計画」を策定し、極力機械を使わず、人の手によって整備しています。森の整備に当たっては、区画を決め区画ごとの目的に応じて間伐や下草刈り等の作業を行い、多様な自然環境を創出し、多様な生きものが生息できる空間作りを目指しています。



間伐の様子



堺自然ふれあいの森「森の館」遠景

その結果、大阪府レッドリストや堺市レッドリストに掲載されているカワバタモロコ（府・I類、堺市・A）、ゴイシンジミ（堺市・A）、カヤネズミ（府・準、堺市・B）、トノサマガエル（府・準、堺市・B）等の生きものをはじめ、多種多様な生きものが暮らす森へと変化しました。

それら貴重種や希少動植物については、生息環境を保全するための維持管理作業に取り組んでいます。

例えば、カワバタモロコは全国的に著しく減少し、堺市内では南部丘陵での生息が僅かに確認されているだけとなっています。平成21年度に近隣の小学校が増殖させた本種を園内の池に保護を目的に放流し、翌年には個体の生息を、23年度には繁殖を確認し、24年度の調査では推定1000匹以上に繁殖していることが確認できました。また、カヤネズミは生息環境であるススキを移植し、ススキ草原を増やして営巣できる環境を維持しています。



カヤネズミ

当園では「森の学校」としてこの環境を活用し、乳幼児から高齢者まで幅広い年代の方が、それぞれの目的、興味に応じて、自然とふれあえる場を提供しています。

また、小学校の受入れや教員対象の研修会を開催することにより、実体験できる環境学習の場としての役割も担っています。

多くの市民の方が自然とふれあい、森の遷移や里山と人との関係、生物多様性など、環境について学べる森として、引き続き市民と共に取り組みます。

（木下裕美子）



自然観察会

コラム column ブナ林 (トラスト)

和歌山県との府県境に位置する和泉葛城山(858m)は岸和田市と貝塚市にまたがり、両市の豊かな水と緑あふれる森林を育てている。山頂周辺にはそれを象徴するブナ林が広がっており、1923年に国の天然記念物に指定(約8ha)されている。その指定エリアには400本を超えるブナが現存している。その中には、日本全国で



ブナ林(平田慎一郎 撮影)

有数のブナの大木があったが、残念ながら今では枯死してしまった。本来、ブナ林は冷温帯地域の極相となる森林であるが、和泉葛城山のブナ林はブナが生育する環境としては標高が低く、緯度も南限に近い場所で成立している。そのため、太平洋側のブナ林の特徴でもあるように、アカガシなどの常緑広葉樹も混在するブナ林となっている。また、奥山ではなく、人里に近いところにあることも希である。



ブナ林(平田慎一郎 撮影)

この和泉葛城山のブナ林を保全するために、大阪府が指定エリアの周辺を緩衝樹林帯として地元から買い上げて、岸和田市・貝塚市とともに一体的に保全することを目的としたトラスト活動が展開されている。その緩衝樹林帯にも多くのブナに加えて、イヌブナもまとも

ここでは、100種をこえる鳥類が見られるとともに、両生類ではコガタブチサンショウウオやニホンヒキガエル(ともに、府・II類)も生息する。そして、昆虫ではここ和泉葛城山で見つかり、新種記載されたカツラギツヤコガなどの小蛾類もいる。また、植物でも、ナツノタムラソウやハシリドコロ(ともに、府・II類)、コショウノキやエイザンスミレ(ともに、府・準)なども生育する。

このように、和泉葛城山のブナ林には、遺存種を含めてブナ林特有の動植物など、多様な生命をはぐくむ生物多様性の宝庫である。

アクセスは、岸和田市方面、貝塚市方面からもハイキングコースがある。標高600mをこえる付近から常緑樹が極端に減ってきて、650mあたりからブナが生息している。このハイキングコースの一部は、頂上にある神社への参道でもあり、道端には丁石も立っている。とくに、弘法大師がのどを潤したといわれる「玉冷泉(ぎょくれいせん)」や、村の人々が雨乞いの場としていた「枇杷平(びわだいら)」(一対の石灯籠がたつ)などがある。また、山頂には2つの「八大竜王社」が背中合わせにあり、大阪側のものを「高麗神社」ともよぶ。この八大竜王社の社寺林として禁伐とされてきたことでブナ林が残った。

周辺の施設など

・牛滝温泉「いよやかの郷」は温泉宿泊旅館施設で、日帰りでも温泉や旬の味や季節の彩りあるお食事、カフェやお土産ショップも楽しめる。

☎ 072-479-2641、URL: <http://www.iyoyaka.jp/index.html>

周辺には、紅葉の名所である牛滝山や大威徳寺(多宝塔は国の重要文化財)もある。



ブナ林(平田慎一郎 撮影)

(天満 和久)



13 信太山丘陵

ホットスポットAランク 全体地図 ③⑧

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地

周辺の施設など「信太の森ふるさと館」では、信太山の自然や信太の森の歴史などが写真や資料で紹介されている常設展示「信太の森と葛の葉」など
 ☎ 0725-45-0605
 URL:
<http://www.city.osaka-izumi.lg.jp/kakukano/syougaiibu/bunkasinkou/gyomu/furusatokan.html>
 (信太の森ふるさと館／和泉市ホームページ)
<http://www.ican.zaq.ne.jp/sinodanomori/>



信太山 (平井規央 撮影)

和泉市の北部に位置し、標高30~70m、約300haに及ぶ丘陵地である。そこにはため池や谷あいの湿地などが点在し、大阪府内最大の湿地群が広がっている。その大半が自衛隊演習地であるが、そのために大規模な開発の影響をまぬがれ、住宅地に近接しているにもかかわらず、豊かな自然環境が残されている。

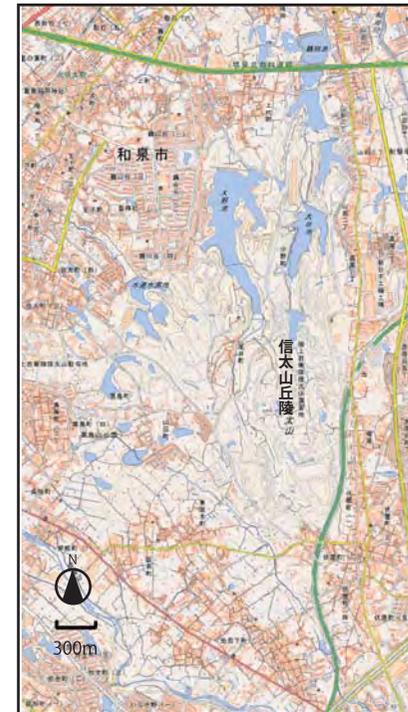
とくに美しい園地があったり、整備された散策道があるわけではないが、今となってはとても貴重な場所であり、ここにはサギソウ(府・II類)やトキソウ(府・I類)などのラン科の植物の他、コバナノワレモコウやアギナシ(ともに、府・I類)などの湿地性の植物がひっそりと生育していたり、カスミサンショウウオやウスバカマキリ(ともに、府・I類)などに出会うこともある。

こうした希少な生きものたちは、様な環境に生息しているものではなく、たとえば植物についてみると、澄んだわき水でできた貧栄養の明るい湿地に生えるラン科の植物のようなもの他にも、規模は小さいが谷戸地形を利用してつくられ、今は耕作放棄されたような水田、あるいはため池からの水路周辺など、水がやや停滞したり、富栄養な水質となる低湿地を好むような植物が生息している。また、食虫植物のイシモチソウ(府・II類)が生えるような、ふだんは乾燥しているが雨の後だけ水たまりとなるような裸地の場所もある。このように、湿地とはいえ、幅広い水分条件の立地が形成されていることが生物多様性の宝庫となっている。

また、昆虫類ではウスバカマキリのように攪乱が少ない安定した草地に生息する生きものも注目したい。この他にも、両生類では春先に水田や水路あるいは浅い水たまりに産卵にやってくるカスミサンショウウオやニホンアカガエル(府・II類)、鳥類ではオオタカやノスリ(ともに、府・準)、ミサゴのような猛禽類、近年ではコウノトリなども飛来しているようである。

上記のような、さまざまな生物の他にも、池上・曾根遺跡、黄金塚古墳、聖神社や葛葉稲荷神社など、この地域に弥生時代から続く歴史や文化も非常に興味深い。平安の昔より、「もりは信太の森」(『枕草子』)といわれたように、わが国を代表する森の一つであった「信太の森」にはシリブカガシとよばれる乾燥した土壌や岩盤が発達した土地に生育する照葉樹林の構成種として重要な種が自生している。いずれにしても、古代より水田耕作などを通じて、人との関わりが深い自然にこれほどまでの生きものが歴史や文化とともに息づいてきた、まさに生物多様性のモデルとなる地域である。

(天満 和久)



イシモチソウ (平井規央 撮影)



信太山 (平井規央 撮影)

アクセス: JR阪和線「北信太」から南海バス「鶴山台4丁目」下車。車は近畿自動車道堺インターチェンジや堺泉北有料道路から近い。

地図は地理院地図、電子国土Web (<http://maps.gsi.go.jp/>) を元に大阪府立大学で作成



カスミサンショウウオの卵のう (平井規央 撮影)



ウスバカマキリ (平井規央 撮影)



ニホンアカガエル (平井規央 撮影)

コラム column 信太山の地質と湧水湿地

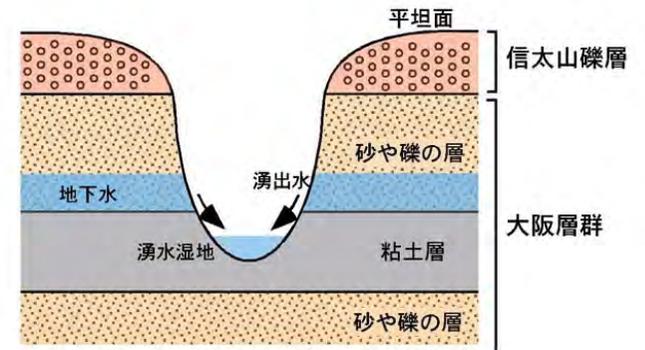
和泉市北部の陸上自衛隊信太山演習地やその周辺には、標高40～80mの平坦な地形面がいくつかの谷筋を伴って発達している。この地域は信太山丘陵と呼ばれるが、尾根部に小規模ながらも平坦な地形面が存在することから、地形分類では台地や段丘とされる。こうした平坦面は、主に河川の浸食・堆積作用によって形成されたもので、過去の平坦な河床面の地盤が隆起したことで、現在の河床面よりも高い標高に位置する。平坦面の表層には信太山礫層と呼ばれる河川性の厚さ数m～10mの薄い礫層が分布する。信太山礫層は、風化による赤色化によって特徴づけられ、約20万年前頃に堆積したとされる。



信太山の大阪層群粘土層

一方、信太山礫層下の台地地形の地質の大部分は、大阪層群と呼ばれる地層で構成される。信太山周辺の大阪層群は約40～50万年前頃に堆積したとされ、河川などで堆積した淡水成の砂や礫主体の地層と主に海で堆積した粘土層の繰り返しで特徴づけられる。こうした堆積物の変化は、約200万年前以降に顕著

になった気候変動に伴う海水準変動の影響を受けたものである。現在まで続くこの気候変動は、氷期・間氷期サイクルとも呼ばれ、寒冷な氷期と温暖な間氷期が約10万年周期で繰り返される(ただし、80万年前以前は約4万年周期)。大陸上の氷床の増減により、寒冷な氷期には海水準は低くなり、温暖な間氷期には海水準は高くなる。こうした海水準の変動の繰り返しにより、砂や礫主体の地層と主に海で堆積した粘土層が交互に堆積した。



信太山の模式的な地質と湧出水との関係

大阪府で数少ない湧水湿地の一つである信太山湿地もこうした地質と深い関係にある。台地の表層の信太山礫層や大阪層群中の砂層や礫層は、砂や礫の粒子が大きいため、間隙が大きく水を通すのに対して、大阪層群中の粘土層は、その粒子が小さいため水を通しにくい。結果、砂層や礫層が上に位置し、粘土層が下に位置する地層境界は、地下水の通り道となり、こうした地層境界が露出するような谷筋では湧水が流出する。さらに谷の底部が粘土層の場合には、こうした湧水を貯める自然のプールとなり湧水湿地が形成されやすい。

(井上 淳)



信太山の平坦な地形面(段丘面)



14 男里川河口

ホットスポットAランク 全体地図 ④7

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地



上空から見た男里川河口
(大阪市立自然史博物館 撮影)

男里川は和泉山脈北西部を集水域とする金熊寺川、山中川、菟砥川が合流した河川で、泉南市と阪南市の北部域の境界をなしながら大阪湾に注いでいる。菟砥橋(府道250号線)付近から河口までの約600mが感潮域となっている。大阪府を流れる河川としては決して大きくはないが、河口に形成される干潟は大阪湾内でも指折りの規模を持ち、特に底生生物相は高い多様性を誇る。これは比較的大きな面積のヨシ原が維持されていることに加え、砂底から泥底まで幅広い底質を備えていることによる。埋め立てによる沿岸開発が過度に進んだ大阪湾内にあって、非常に貴重な干潟環境である。



菟砥橋下手から海側の感潮域



右岸(東岸)の河口付近

底生生物:河口中洲のヨシ原では、フトヘナタリ(府・準)やクリイロカワザンショウ(府・準)、ハクセンシオマネキ、ユビアカベンケイガニ(府・準)、アシハラガニ等が多く見られる。河口右岸(東岸)から延びる砂嘴(さし)の内側は主に泥質で、ヤマトオサガニのほか、シオマネキ(府・II類)やトビハゼ(府・I類)が見られることもある。砂嘴の外側では打ち上げ貝が多く、ビーチコーミングを楽しめる。左岸(西岸)側の底質は少し荒く、湾奥部では見られないホソウミニナ(府・I類)の個体群が維持されている。左岸から南へは砂地の浜が続く。ほかにも男里川河口では全国的にも希少とされるイボウミニナ(府・情不)、ヘナタリ(府・I類)、ウモレベンケイガニ(府・II類)なども断続的に確認されている。かつてはカワアイ(府・絶滅)の記録もあった。また、湾外からの幼生の供給を受けやすい位置にあることから、2000年代以降は感潮域上部でタケノコカワニナ(府・I類)の定着も確認されている。



右岸から延びる砂嘴



タケノコカワニナ



フトヘナタリ



ハクセンシオマネキ



ホソウミニナ

周辺の施設など徒歩圏内には自然観察をサポートしたり、学習できる施設はない。水量の少ない時は右岸と左岸を徒渉で行き来できるが、多い時は菟砥橋を通して迂回する必要がある。



アクセス:南海本線「樽井」または「尾崎」から徒歩約20分。車は国道26号線から西へ。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成



ソリハシシギ
(植山雅仁 撮影)

鳥類:羽数は少ないが、ズグロカモメ(府・準)の大阪府唯一の定期的な渡来地となっている。また、大阪府では数ヶ所しかないイカルチドリ(府・II類)の繁殖地でもある。シギ・チドリ類のレッドリスト種ではメダイチドリ(府・II類)、ソリハシシギ(府・II類)、キアシシギ(府・準)、トウネン(府・準)、キョウジョシギ(府・II類)などが見られ、大阪府南部では貴重な渡来地である。



キョウジョシギ
(植山雅仁 撮影)

塩湿地性の植物群落:男里川河口には比較的まとまった塩湿地があり、ハマサジ(府・I類)の群落が見られる。また、大阪湾岸では産地の少ないハマツツナ(府・I類)やナガミノオニシバ(府・I類)なども生育している。

(石田 惣)



アシハラガニ



ユビアカベンケイガニ



ハマサジ(和田 岳 撮影)



ハマサジが見られる植物群落(横川昌史 撮影)

コラム column 男里川のタケノコカワニナ

タケノコカワニナは、トウガタカワニナ科の汽水性の巻き貝である。わずかに海水の影響を受けるような河川の砂泥質の浅瀬を好む。全国的に減少傾向であることから、環境省レッドリスト(第4次)でも絶滅危惧II類に指定されている。大阪湾内では長らく記録がなかったが、2000年代から男里川河口で見つかるようになった。生息しているのはやはり感潮域の最上部で、流れのゆるやかなヨシ原の中である。個体数は多くないものの、複数年にわたって生息が確認されていることから、かろうじて個体群は維持されているようである。湾内に安定した個体群が他にないことから、湾外(例えば和歌山県下の河口域など)から浮遊幼生が流入し、着底した可能性が考えられる。

2000年より前の大阪湾内での生息記録は、1927(昭和2)年にさかのぼる。堺市史の編纂のために行われた調査によると、旧三宝村(現在の堺市堺区の北西部で大和川河口左岸付近)の新田の水路で生息していたという。タケノコカワニナが好む底質や塩分の条件が整っていたのだろう。おそらく当時は湾内の他の自然河川でも生息していたに違いない。タケノコカワニナに好適な環境は、河川の中では概して面積は小さく、氾濫などによって局所的に絶滅することもあったかもしれない。それでも近傍に別の生息場所があれば、幼生が供給されて分布は回復しやすい。戦後、河川改修が進んで、タケノコカワニナのすむ環境は急速に失われた。湾内で幼生供給のネットワークが断たれた現在、男里川のタケノコカワニナの個体群は非常に脆弱と言わざるを得ない。

(石田 惣)



男里川でのタケノコカワニナの生息環境。



旧三宝村のタケノコカワニナ
(「堺市史」第一巻本編第一より転載)



15 泉南地域の砂浜

ホットスポットAランク 全体地図 48

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カシ	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地

周辺の施設など
せんなん里海公園は
駐車場やトイレ(車
いす用、おむつ替え
シートあり)、水道設
備、あずま屋がある。
☎ 072-494-2626
URL:
<http://www.osaka-park.or.jp/rinkai/ennan/main.html>

大阪府立青少年海洋
センターには宿泊研
修設備があり、せん
なん里海公園での生
物観察プログラム等
も用意されている。
☎ 072-494-1811
URL:
<http://www.osaka-kaiyo.com/>

阪南市尾崎～貝掛・箱の浦の沿岸には、自然の砂浜が残されている。かつて大阪府の海岸線の大半は砂浜であったが、高度経済成長期以降の沿岸開発によりそれらを失うことになった。湾奥からりんくうタウンまで



阪南市の砂浜

が埋め立てられしまった大阪府にあって、阪南市の砂浜は最後の岩ともいべき沿岸環境である。ここでは砂質の干潟が点在し、砂浜では海浜植生を見ることができる。

箱の浦の西、茶屋川河口を越えると、せんなん里海公園(阪南市箱作・泉南郡岬町淡輪)がある。ここはもともと岩礁や転石浜だった場所を埋め立てた人工造成の砂浜である。海浜植物の植生も見られ、砂浜性生物に生息場所を提供しているという点では、一定の役目を果たしている環境である(せんなん里海公園は生物多様性ホットスポットのCランクとして指定)。

せんなん里海公園から淡輪漁港を過ぎ、番川河口を越えると再び自然の海岸が現れる。ここからみさき公園の裏手までは主に砂礫浜となっている。

ここでは、先述した阪南市の砂浜について紹介する。観察に適しているのは、尾崎漁港から西鳥取漁港の少し南までである。

砂浜の浅瀬や前浜干潟:砂浜は男里川河口左岸(西岸)から始まる。断続的に突堤やテトラポッドの離岸堤が設けられており、そこでは主に砂質の浅瀬や前浜干潟となっている。表在性(底質の表面で生活する)生物で、汀線付近でも観察しやすい種としては**ウミニナ(府・準)**、**ツメタガイ**、**ウミフクロウ**、**キセワタ**、**キンセンガニ(府・準)**、**マメコブシガニ(府・準)**、**ハスノハカシパン(府・準)**などが挙げられる。埋在性(底質に潜って生活する)生物では、煙突のような棲管を作る**ムギワラムシ(府・II類)**や、春から初夏にかけてにぎりこぶし大のゼリー状の卵のうを砂の表面に産みつける**タマシキゴカイ(府・準)**が見つけやすい。砂の表面を注意深く見れば、**アサリ**や**マテガイ(府・準)**の巣穴を見つけることもできる。湾内では記録が少ない**フジナミガイ(府・II類)**や**キヌタアゲマキ(府・準)**も、この沿岸で確認されている。



ウミニナ



キンセンガニ



ハスノハカシパン



ムギワラムシの棲管



干潟



アクセス:南海「尾崎」、「鳥取ノ荘」、「箱作」、「淡輪」下車。車は国道26号線利用。

地図は地理院地図、電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>)を元に大阪府立大学で作成

公開施設ではないが、阪南市沿岸には尾崎漁港、西鳥取漁港、下荘漁港があり、いろいろな漁法の漁船が停泊している。帰港時には漁獲物の陸揚げの様子が見られるかもしれない。見学は漁業者の方の了解を得て、仕事の邪魔にならないようにしたい。

アマモ場: 浅瀬ではアマモ場(海生の被子植物であるアマモの群落)が形成されているところもある。アマモの葉上や植生近くの底質には様々な生き物が見られる。**ヒメイカ(府・II類)**などはその代表である。アマモ場は魚類を始めとする海洋生物の産卵場所や幼稚子の保育場所になることから、沿岸生態系の保全の観点からも注目される環境である。

海浜植生: 沿岸の開発が進んだ大阪府は、他の地域に比べて海浜植物相は決して豊かとは言えないが、それでも大阪府南部では比較的良好的な海浜植生が残されている。阪南市の砂浜ではハマヒルガオ、ツルナ、ハマウド、**ハマボウフウ(府・I類)**、**コウボウムギ(府・II類)**、コウボウシバなどが見られる。特にハマボウフウ、コウボウムギ、コウボウシバは比較的まとまった砂浜でないと生育できないため、阪南市の砂浜はこれらの植物の貴重な生育地といえる。(石田 惣)



アマモ場



ヒメイカ



ハマボウフウ



ハマヒルガオの群落



ハマヒルガオ



コウボウムギ(横川昌史 撮影)



16 岬町海岸 長松・小島海岸

ホットスポットAランク 全体地図 51

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	汽水・淡水魚	昆虫類	クモ類
陸産貝類	淡水産貝類	海岸生物	その他淡水産無脊椎動物	維管束植物	コケ植物	菌類

ヨシ原	ワンド	アマモ	ブナ林	モミ・ツガ	シイ・カン	アカマツ林	ナラ林	貧栄養湿地	堤体草地
水田群	干潟	砂浜	棚田	ため池群	河川源流部	河川砂礫地	岩礫性海岸	洞穴	代替裸地

大阪府の沿岸延べ238kmのうち自然海岸は1.9km(0.8%)で、その貴重な海岸が岬町に残されている。大阪湾は250万年前にできた構造的窪地から形成され、岬町は和泉山脈の西端にあり、愛媛県から瀬戸内海を縦断し、大阪府南部まで分布する和泉砂岩層(中生代白亜紀末7000万年前に堆積した地層)が露出している。紀淡海峡に近く、潮の干満で高塩分で貧栄養な外海水と栄養豊かな内海水が出入りする。過去の氷期には海面が低下し、湾中央を流れる古淀川が友ヶ島海峡から紀伊水道へ流れ落ち、温暖な間氷期には海が淀川から内陸に入り込んで河内湾となり、海岸を波が削った海蝕崖がみられる。岬町長松の長崎、谷川の観音崎と豊国崎、豊国崎から小島の明神崎間に海蝕崖がみられ、その下の海岸は潮流(潮汐による海水の流れ)や波に洗われて岩礁となっている。崖は砂岩と頁岩(泥岩が圧力で板状になった)が互層をなし、コダイアマモ(動物生痕化石)やアンモナイト、二枚貝、ウニ、カニなどの化石もみられる。砂岩や泥岩などの堆積岩は削れやすく吸水性が高いので、夏の炎天下では浸透水が蒸発し、気化熱で岩石の温度

周辺の施設など
みさき公園
動物園、遊園地、イルカスタジアム、プールなどの複合レジャー施設
☎ 072-492-1005

大阪府立青少年海洋センター・せんなん里海公園
青少年が海の自然に親しむ健康・文化レクリエーション施設
☎ 072-494-1811
(大阪府立青少年海洋センター)
☎ 072-494-2626
(せんなん里海公園)



岬町谷川 豊国崎

上昇を防ぎ、生物の棲息に優しい基質になる。岩の下には砂や砂泥がたまり、生物に多様な生活基質を提供し、岩上には海藻類が豊富に生育し、多様な海岸生物がみられる。

大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター・栽培漁業センター
大阪湾の環境と生物漁業に関する総合的な研究を行い、稚魚の生産・放流、環境保全活動を行う
見学可能
☎ 072-495-5252

道の駅「とっとパーク小島」

☎ 072-447-5126
小島漁業協同組合
海釣り桟橋、駐車場・
トイレ・公衆電話(24
時間利用可)
☎ 072-495-5019

小島漁港バーベキュー
広場・みなと茶屋
☎ 072-495-5016



岬町谷川 豊国崎

長松海岸はみさき公園とゴルフ場の外周を狭い町道が走り、その下の岩礁は砂岩の露頭の間に砂、砂利、転石が入り交じる。長松海岸先端の長崎付近は岸から沖200m位まで岩があり、ホンダワラ類、カジメ、ワカメ、雑海藻が繁茂する大阪府最大の藻場になっている。豊国崎から小島の間は海蝕崖と岩礁のきれいな自然の海岸が続き、一帯は長松・小島自然海浜保全地区として「大阪みどりの百選」に選ばれ、瀬戸内海国立公園の一部でもある。小島は岬の先端が離れ小島のように見え、大昔に陸繋島になったような地形で、内側の低い場所に民家がある。岬の上部に豊漁と海上安全を願う「小島住吉明神社」があり、明神崎と呼ばれている。明神崎の神社周辺にはウバメガシが群生し、社叢のウバメガシの大木は府の天然記念物に指定されている。昔は神社の階段がニオガイやイシマテガイの穴が空いた砂岩で作られ、神社の裏側は和泉砂岩の地層が美しい海蝕崖で、その下の岩礁が好適な観察場所であったが、近年の護岸工事により岬の周囲は堤防で囲まれ、その外側は花崗岩の割石が平坦に積まれ、昔の磯の風情は失われている。

長松海岸は人が下りやすい広い岩礁で、かつて南淡輪(みなみわたんのわ)と呼ばれた昔から生物種が多いことで有名な観察地である。ここには冬季に水温が低くなる海にすむ生物(中温性生物)に加え、日本の沿岸を流れる黒潮(暖流)が接岸し、紀伊水道から北上する分枝流が熱帯域や南日本にすむ生物の幼生を運んでくるため、瀬戸内海内域に比べて中温性から暖温帯性の生物まで多様な生物が出現する。大阪湾海岸生物研究会の1981～2012年の調査では、これまで126種の高藻と404種の海岸動物が記録されてい

る。湾口に近い小島明神崎では、過去には海中にイソバナ、フトヤギ類などの外海的な刺胞動物がみられ、潮間帯にはウメボシソギンチャクが群生したが、護岸工事により激減した。海岸生物は護岸工事が及んでいない岩礁域でしか観察できなくなった。岬町長崎は特急・急行が停車するみさき公園駅に近く、博物館などの磯の観察会によく使われている。谷川の豊国崎、小島明神崎は多奈川線終点からコミュニティバスがでている。

「第5回自然環境保全基礎調査海辺調査」(環境庁)によると、平成8年度調査において、府域の瀬戸内海の海岸線のうち自然海岸は0.8%、半自然海岸は4.5%、人工海岸は92.5%、河口部は2.2%になっている。

自然海浜の保全のため「瀬戸内海環境保全特別措置法」に規定された「大阪府自然海浜保全地区条例(昭和56年3月制定)」に基づき、長松自然海浜保全地区、小島自然海浜保全地区に指定されている。

(鍋島 靖信)



岬町小島 明神崎



岬町 長松海岸 長崎



小島海岸

地図は地理院地図、電子国土Web(http://maps.gsi.go.jp/)を元に大阪府立大学で作成



長松海岸

アクセス:長松海岸は南海「みさき公園」、小島海岸は南海「みさき公園」または「多奈川」から岬町コミュニティバスで「谷川」下車。車は国道26号線から深日のロータリーで府道65号線に入り、西に向かう。

地図は地理院地図、電子国土Web(http://maps.gsi.go.jp/)を元に大阪府立大学で作成

執筆者一覧(50音順)

石田 惣	大阪市立自然史博物館
井上 淳	大阪市立大学大学院
上原 一彦	大阪府立環境農林水産総合研究所
梅原 徹	兵庫県立大学大学院
木下裕美子	堺自然ふれあいの森
佐久間大輔	大阪市立自然史博物館
竹内 剛	大阪府立大学大学院
谷田 一三	大阪市立自然史博物館
辻尾 匡彦	堺市環境局
天満 和久	NPO法人 大阪自然史センター
鍋島 靖信	大阪府立環境農林水産総合研究所
平井 規央	大阪府立大学大学院
平田慎一郎	きしわだ自然資料館
前迫 ゆり	大阪産業大学大学院
道盛 正樹	NPO法人 大阪自然史センター
山西 良平	西宮市貝類館
和田 岳	大阪市立自然史博物館

デザイン

上田 昇平	大阪府立大学大学院
福森 史世	大阪府立大学大学院

(表紙・裏表紙写真)

表紙：写真 上段 第54回奥河内観光写真コンクール 銀賞 郵便局賞
「朝の光」提供元 河内長野市観光協会
写真下段左から
ムササビ(村濱 史郎 撮影)
ギフチョウ(平井 規央 撮影)
サンバ(植山 雅仁 撮影)

裏表紙：写真 上段 岩湧山のススキ
提供元 河内長野市総合政策部都市魅力戦略課
写真下段左から
デンジソウ(平井 規央 撮影)
イタセンバラ(写真提供 大阪府立環境農林水産総合研究所)
カスミサンショウウオ(平井 規央 撮影)

大阪の生物多様性ホットスポット - 多様な生き物たちに会える場所 -

平成28年(2016年)1月発行

企画・発行 大阪府環境農林水産部みどり推進室みどり企画課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16
咲洲庁舎22階
TEL:06-6941-0351(内2745) FAX:06-6210-9551

監修 石井 実 大阪府立大学
編集 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科
緑地環境科学専攻 環境動物昆虫学研究グループ
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
TEL:072-254-9413 FAX:072-254-9694

協力 大阪生物多様性保全ネットワーク ※
事務局:特定非営利活動法人 大阪自然史センター
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23
大阪市立自然史博物館内
TEL:06-6697-6262 FAX:06-6697-6306

※大阪府環境農林水産部、大阪府立環境農林水産総合研究所、大阪市環境局、堺市環境局、大阪府立大学、大阪市立大学、大阪市立自然史博物館、関西自然保護機構、生物多様性かんさい、特定非営利活動法人大阪自然史センター